

登録コード	F3D53025	開講年度	2026				
授業科目	生物科学基礎実験　〔 B 〕				担当教員	白井　孝治　他	
英文授業名	Experiments in Basic Bioscience I				副担当	塩見　邦博・矢澤　健二郎	
単位数	1	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・ 3 時限　金曜・ 4 時限　金曜・ 5 時限	対象学生	応用生物科学科 2 年
講義室			授業形態	実験	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 4 Fカリ・応用生物, 2 3 Fカリ・応用生物, 2 2 Fカリ						
	実験事実に基づいて客観的・論理的に考える能力				生物学を学ぶ上で基本となる科学的な観察および考察能力が身につく、レポートにまとめることができるようになる。		
	生物科学の応用に際して直面する課題を理解し、自立して問題解決の方法を探す能力				レポートの作成を通じて、課題を科学的に考察し、解決する能力の基礎が身についている。		
	自分の考えを伝え、チームとして行動できるコミュニケーション能力				、パートナーと協力して実験課題や目標を達成できる基礎を身につけるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	毎回、実験開始前に実験の目的及び概要を説明する。また実験終了後にはレポートの提出をもとめることで実験内容のより深い理解を促す。実験は3名の教員が抗体で担当する。またTAおよび技術職員も実験に加わり、実験を補助する。						
(5)授業計画	実験内容は予定のため変更する場合がある。実験変更の予定は講義中、e-Alpsまたはメールで連絡する。履修登録を必ずしておくこと。講義は形式上90分としますが、実験・実習科目のため休憩時間等は教員の指示に従ってください。 1　ガイダンス 2　動物の形態（筋肉、骨、腱、靱帯など） 3　顕微鏡の原理・使用方法の基礎 4　脊椎動物の細胞（筋肉、骨組織他） 5　無脊椎動物の観察1 6　無脊椎動物の観察2 7　植物の形態の観察と学習 8　動物の行動分析とデータ解析基礎1 9　動物の行動分析とデータ解析基礎2 10　バイオフィ이버実験1 11　バイオフィ이버実験2 12　総括・授業アンケート解答						
(6)成績評価の方法	出席および実験への参加態度・意欲（30％）、レポートの成績（70％）を考慮して、総合的に判断する。 遅刻をせず、必ず出席すること。実験では教員の注意をよく聞き、積極的に参加しているかを判断する。レポートは与えられた課題についての達成度を内容や文章構成などから判断する。丁寧な文字で論理的なレポートを提出すること。全ての実験への出席およびレポートの提出が単位取得条件となる。出席やレポートの提出が困難な場合は担当教員へ必ず連絡をし、指示を仰ぐこと。						
(7)成績評価の基準	実験で設定した探求課題およびレポート課題への取り組みについて講義目標に対する達成具合を評価する。与えられた実験を行い、提出されたそれぞれの課題が基準に達していれば「良」、優れていれば「優」、特に優れていれば「秀」、逆に劣っていれば「可」、基準に達しない場合「不可」となる。よって実験に参加し、レポートを提出するのみでは単位が与えられないことがある。また、1度でも無断で欠席した場合やレポート提出がないなど場合は基本不可となる。やむを得ず休む場合は必ず担当教員に申し出ること。補習など対応します。						
(8)事前事後学習の内容	事前の学修予告がある場合は、かならず予習をしておくこと。また毎実験ごとに課題レポートの提出を課している。レポートの作成を通じて復習をはかり、理解を深めること。目標に到達しないレポートは問題点を指定した上で再提出を求める。						
(9)履修上の注意	実験は必ず危険が付きまといます。よく予習し、また教員の注意事項を守ってください。また実験に関する保険に必ず加入すること。						
(10)質問、相談への対応	時間の許す限り受け付ける。ただし担当の教員に事前に連絡をすること。						
(11)学生へのメッセージ	実験科目は出席し、積極的に参加することが最も重要である。またレポートでは実験の見直し、データの解析と科学的考察を学ぶ基礎となる。よく予習し、教員の説明を理解して積極的に行動すること。						
(12)その他	特になし。						
【教科書】	必要に応じてプリントを配布する。						
【参考書】	特になし。						